

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表日:令和2年7月29日

事業所名: 愛心子どもの家

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓		活動内容を工夫したり、個人のスペースを確保したり、子どもが窮屈な思いをしないようにしている	
	2 職員の配置数は適切である	✓		子ども数や状態に合わせて、丁寧に支援できる体制を確保している	今後子どもの数が増えていったら、丁寧に支援できる体制を維持していきたい
	3 生活空間は、本人にわかりやすく標準化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	✓		玄関にスロープを設置している	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	✓			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	✓		職員会議にて全職員と話し合っている	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		✓		今後、外部の方にコンサルテーションをしていただくことを検討していきたい
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓		内部研修・外部研修を行っている	事業所全体として向上できるような環境を築いていきたい 外部研修に行った場合、伝達をしっかりと行っていきたい
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	✓			保護者様ともしっかりと話し合いたい
	11 子どもの適応行動の状態を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	✓			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	✓			家族支援・地域支援の観点より検討し、必要に応じて目標設定・支援をしていきたい
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	✓			
適切な支援の提供	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	✓		日々の業務・職員会議で話している	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓		色々な観点から考えている	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	✓			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓		勤務の最後に反省会の機会を設けている	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	✓			
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した職員が参加している	✓		児童発達支援管理責任者が参加している	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	✓			関係機関ともしっかり連携を図る必要がある
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、教育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			非該当(今のところ)	
関係機関や保護者との連携	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもと主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			非該当(今のところ)	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			非該当(今のところ)	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			非該当	利用する子どもが年長さんの年になったら、次年度行く小学校と相互理解を図りたい
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓		他の児童発達支援所さんと情報交換をしている 発達障害者支援センターの職員さんと相談したりしている	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもとも活動する機会がある	✓		運動会・クリスマス会・お餅つきなどの行事は、兄弟児も歓迎していて、参加してもらっており、一緒に活動している	保育園などの子どもと交流する機会を検討していきたい
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	✓		子ども部会等に参加して、情報交換等を行っている	現場の職員が他事業所職員さんと情報交換できる機会をもてらいたい
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓			
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	✓			これからの検討事項である
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓			
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の内容及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	✓			
保護者への説明責任等	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓			保護者様が気軽に相談できるような関係を作りたい
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	✓		行事に保護者に声をかけ、保護者に来てもらっている 英語会を定期的に行っている	
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	✓			
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓		月に1回事業所の「ひよこだより(愛心だより)」を配布している	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	✓			
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓		必要に応じ、具体物や絵カード・写真等を使い、配慮している	
	40 事業所の行事に地域住民を招き入れる等地域に開かれた事業運営を図っている	✓			散歩に出たり、買い物に行ったりする中で地域の人やお店の人と挨拶を交わしたり、少し話したりする程度で、地域に開かれた運営事業までは至っていない
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	✓			保護者様への周知が不十分であるので、改善していきたい
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓			参加していない子どもがいないように計画していきたい
	43 事前には、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状態を確認している	✓			
非常時等の対応	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている			非該当(今のところ)	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓			
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓			
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で児童発達支援計画に記載している			非該当(今のところ)		